



郷土の歴史を伝承

新得町教育委員会 教育長 武田 芳秋

この度は、新得町郷土研究会が創立四十周年を迎えられたことに対して、心よりお慶び申し上げます。

また、本町の貴重な歴史を後世に伝えていくため、日頃より資料の調査や収集保存、歴史的価値のある場所への史跡銘板・史跡標柱の設置や管理など、郷土の保存及び伝承への取り組みにご尽力をいただいておりますことに改めてお礼を申し上げます。

歴史の流れとともに街並みは常に変化を遂げ、その時々歴史や場所を知る町民が減ってきている中、新得町を切り拓いた先人の苦勞を偲び、感謝を忘れないためにも、こうした地道な活動を続けることはとても重要なことでもあります。

さて、平成二十六年には、旧上佐幌小学校跡を改修し、郷土資料収蔵庫「ふるさと館」を開設いたしました。貴会のご指導、ご協力のもと、ホールには大型の農機具等の資料を配置、各教室では「鉄道」「商工業」「林業」といった町の歴史に深い関わりのある資料をテーマ毎に分類して展示することができ、町民に親しみやすい施設となりました。ふるさと館は、町内の小中学校や高等支援学校による郷土学習の学びの場としても活用され、その際には、高橋会長を始め、会員の皆様から親切、丁寧なご説明をいただいていることに深く感謝を申し上げます。

また、本町の開拓一二〇周年記念事業による「そばづくり体験」では、そばの脱穀・製粉作業として、実際にふるさと館に収蔵してある「唐竿」や「唐箕」といった昔の農機具を使った体験教室で、子どもたちにご指導いただき、当時の歴史の一コマに触れてもらうことができました。

現在、本町では、町にとって重要な文化財の保存及び活用によって町民文化の向上に資することを目的として、平成二十四年に「文化財の保護に関する条例」を定めた後、現時点で四件の文化財を指定しております。その中でも「新内バツタ塚」や「新内隧道ヒカリゴケ」、「旧狩勝線鉄道遺構群」については、町民に対しての現地ツアーを始め、町内小中学校による郷土学習の見学地としても取り入れられており、貴会の協力のもと、地域の貴重な歴史的遺産を肌で感じられる機会が子どもたちに提供できていることに大変嬉しく思っております。

郷土の歴史や文化財に接する機会や場所は限られておりますが、自分たちの住む町への愛着や誇りが持てるよう、歴史や文化財に対する興味関心、理解を深められる取り組みを進めていくことは教育行政の役割であります。教育委員会としても郷土の歴史などの伝承に努力をしていきたいと思っておりますので、今後ともご指導、ご支援いただきますようよろしくお願いいたします。

結びに、郷土研究会の益々の発展と、会員皆様のご活躍をご祈念申し上げます。「郷土七号」発刊のお祝いの言葉といたします。